

陀如来の本願力によって、往生成仏し、この世に還つて迷えるものを救うためにはたらくという教えです。南無阿弥陀仏の名号を聞信するところに往生が定まり、報恩感謝の思いから、如来のお徳を讃える称名念仏の日々を過させていただくのです。

仏教の説く縁起の道理が示すように、地球上のあらゆる生物非生物は密接に繋がりを持っています。ところが今日では、人間中心の考えがいよいよ強まり、一部のひとりの利益追求が極端なまでに拡大され、世界的な格差を生じ、人類のみならず、さまざまな生物の存続が危うくなっています。さらに、急激な社会の変化



で、一人ひとりのいのちの根本が揺らいでいるように思われます。私たちは世の流れに惑わされ、自ら迷いの人生を送っていることを忘れがちではないでしょうか。お念仏の人生とは、阿弥陀如来の智慧と慈悲とに照らされ包まれ、いのちあるものが敬い合い支え合って、往生浄土の道を歩むことでもあります。如来の智慧によって、争いの原因が人間の自己中心性にあることに気付かされ、心豊かに生きることの

できる世の中、平和な世界を築くために貢献したいと思えます。

私たちの先人は、厳しい時代にも、宗祖を敬慕し、聴聞に励まれ、愛山護法の思いとともに、助け合ってこられました。この良き伝統を受け継がなければなりません。しかしながら、今日、宗門を概観しますと、布教や儀礼と生活との間に隔たりが大きくなり、寺院の活動には門信徒が参加しにくく、また急激な人口の移動や世代の交替にも対応が困難になっています。

宗門では、このたびのご法要を機縁として、長期にわたる諸計画が立てられ、広く浄土真宗が伝わるよう取り組むことになっています。七百回大遠忌に際して始められた門信徒会運動、重要な課題である同朋運動の精神を受け継ぎ、現代社会に応える宗門を築きたいと思えます。そのためには、人びとの悩みや思いを受けとめ共有する広い心を養い、互いに支え合う組織を育て、み教えを伝えなければなりません。あわせて、時代に即応した組織機構の改革も必要であります。

それとともに各寺各地で勤められる大遠忌法要を契機に、その地に適した寺院活動や門信徒の活動を、地域社会との交流を、そして、寺院活動の及ばない地域では、一層創意工夫をこらした活動を進めてくださるよう念願しております。

宗門の総合的な活動の新たな始まりとして、皆様の積

極的なご協賛、ご協力ご参加を心より期待いたします。

平成十七年 一月 九日
二〇〇五年

龍谷門主 釋即如

住職よりひと言

ご覧の通り、このたび親鸞聖人七五〇回の大ご法要をお迎えするに当たり、ご門主らのご消息が發布されました。一九六一（昭和三十六）年の七百年の法要の時、丁度バスがストをして、わが安芸南組は、雨の中を京都駅から本山までびしょぬれになって歩いてお参りしたことを思い出しますね。

あの時前ご門主が出されたご消息の中で、「この頃はあまりに名ばかりの門徒、形ばかりの僧侶が多い」と仰言つたのは有名な語りぐさであります。せっかく浄土真宗にご縁をいただきながら、仏教、浄土真宗に出会った喜びを知ることなく、随って、ご報謝（報恩謝徳）の思いなど思いもしない僧侶・門徒が多いということでしょう。今度のご消息にも仰言つてあるとおり、私どもは心を合わせて「世の中安穏なれ、仏法弘まれ」の思いでこの法要が機縁となつて宗門が再生するよう精進したいと思えます。